

「視野と安全運転の関係に関する調査研究」で明らかになった今後の課題

- 高齢者講習に新たな視野検査器を導入することは可能である。
- 新たな視野検査器を一律に導入することについては、汎用品がないなどの課題があり、現時点では慎重な検討を要する。

【その他指摘されている主な課題】

- ・ 固視の持続ができない者への対応や検査時間等の問題
- ・ 視野異常と交通事故・違反の関係性を示すデータの収集
- ・ 視野異常者に対する個々の視野状況に応じた具体的な説明・指導の内容



水平視野検査器



新たな視野検査器

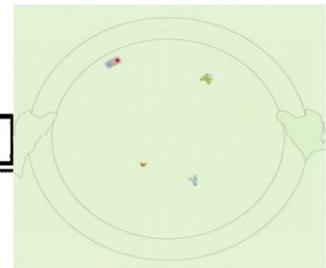
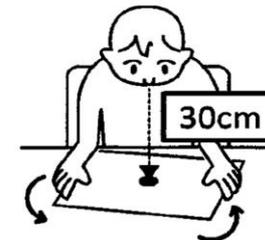
今年度の実施予定(新たな視野検査器による高齢者講習の実施等)

○ 通達の整備等

- ・ 高齢者講習において行う運転適性検査で、新たな視野検査器を使用することができるよう、新たな通達を発出(現行の通達は、水平視野検査器を使用している。)
- ・ 視野異常と交通事故・違反の関係性を明らかにするため、新たな視野検査器によるデータを収集を検討。

○ 高齢者講習の簡素化の検討

運転適性検査を、現在の視野検査器よりも簡素な態様で実施することが可能かどうかを検討するため、実車走行実験の被験者に対して、クロックチャートによる測定を実施(資料2参照)。



クロックチャート